⑩東洋電機

*東洋インテリジェントインバータ用 オプション*JEMAネット(OPCN-1)インターフェイス カード

OPCN64 通信プロトコル説明書



[はじめに]

弊社VF64/ED64spシリーズインバータ用JEMAネット(OPCN-1)オプション「OPCN64」をご採用いただきありがとうございます。

このオプションは(社)日本電機工業会(JEMA)が推奨するネットワーク・OPCN-1の規格を満足した通信機器です。OPCN-1の詳細な規格などにつきましては、JEMAから発行されている規格書を参照して下さい。

この説明書ではマスタ局のプログラムを作成するために必要となる、「OPCN64」の通信プロトコル、データ内容、フレーム構成について説明しています。

OPCN64基板の機能、配線方法やインバータ側の設定などにつきましては、別途用意しております「OPCN64取扱説明書」をご参照下さい。

[目 次]

1.	OPCN64オプション基本仕様	3
2.	入出力サービスについて	4
	2-1. 出力フレーム	. 4
	2-2. 入力フレーム	. 7
3.	データ読み出しサービスとデータ書き込みサービスについて	12
	3-1. インバータ設定データの読み出し処理	
	3-2. インバータ設定データの書き替え処理	14
	3-3. インバータ設定番号について	15
	3-4. トレースバックデータの読み出し	16
	3-5. トレースバックデータのアドレスとデータ内容	17
4.	OPCN64オプション固有のOPCN-1通信仕様について	18

<u>1.OPCN64オプション基本仕様</u>

電 海	制御側 +5V インバータ本体の制御プリント板(V	FC64/VFC200	1)より供給
電源	通信側 +5V 内蔵 DC/DCコンバータより絶縁し	て供給	
通信プロトコル	JIS B 3511 (JEM-F 3008) 準拠		
JPCN-1 適合クラス	TYPE-S52I		
物理層の電気的特性	RS-485準拠		
通信対象機器	当社 μ GPC-H, SX の他 OPCN-1 (JPCN-1) のマス	スタ局の仕様を	有する機器
接続形態	バス型(マルチドロップ方式)		
伝送速度および伝送	VF64/ED64spインバータ本体内蔵のコンソールにて設え	È	
距離	125kbps → 1000m 以内		
	250kbps → 800m 以内		
	500kbps → 480m 以内		
	1Mbps → 240m 以内		
伝送手順	半二重		
同期方式	ビット同期		
変調方式	ベースバンド方式		
符号化方式	NRZI		
接続,配線方式	端子台(5極), 2線式または3線式		
接続ケーブル	シールド付きツイストペアケーブル(CO-SPEV-SB(A) 2P×0.5 を推奨)		
接続局数	1台のマスタ局に対してスレーブ局として1~31局		
局番の設定	OPCN64本体内臓のロータリースイッチにて設定		
通信制御方式	ポーリング/セレクティング方式		
誤りチェック方式	FCS(フレーム・チェック・シーケンス)		
データ形式	バイナリー、または ビットデータ		
ODONO 4	初期設定サービス	0	
OPCN64	入出力サービス	0	
実装サービス	データ読みだしサービス	0	
	データ書き込みサービス	0	
	リセットサービス	0	
	一斉同報サービス	0	
	メッセージ読み出しサービス	×	
	メッセージ書き込みサービス	×	
	データ読出し/データ書込みサービスの		
	7Uサービス利用者層規約の機能	×	
	(旧称:TR192機能の各サービス機能)		

《本マニュアルで使用している語句の説明》

① ARC・・・・ 加減速制御機能 (Auto Regulation Controller)

② MRH・・・・ Up/Down (Key) 入力による速度加減速機能 (Motored RHeostat)

◎通信モードの設定について

OPCN64は JEMA 認証試験に合格した認証モードと、JEMA 認証以前に使用されていた弊社マスタ局と通信が可能となる非認証モードとを選択できます。

出荷時のデフォルトは認証モードです。

通常はこのスイッチを切り替える必要はありません。

非認証モードに設定する必要がある場合は、OPCN64基板上のSW3をONにして下さい。

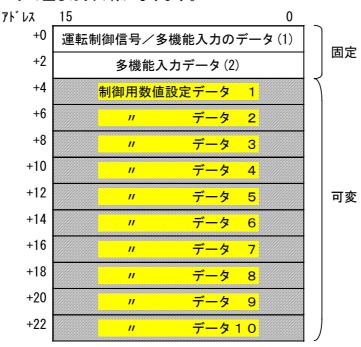
※モードを変更する場合 (SW3 を切り替える場合) は、必ずインバータの電源を切った状態で 実施して下さい。

2. 入出力サービスについて

- (注1)入出力の定義はマスタ局からみた表現であり、[入力]はOPCN64からマスタ局 へ送信したデータ、[出力]はOPCN64がマスタ局から受信したデータです。
- (注2) 以後説明する表中のアドレス部の値はJEMAネットワークで規定しています ヘッダ、データのデータ部の先頭からのオフセット値を表しています。JEMA規格書内の ユーザ・リンク(UL)層でのデータユニット構成のオフセット[+13]のデータです。

2-1. 出力フレーム

出力フレームのデータの並びは次の様になります。



JEMA ネットの出力フレーム(マスタ局→OPCN64)は先頭からの2ワードの情報は固定とし、3ワード目からは可変長とすることができます。またこの制御用数値設定データエリアはスーパーブロックへの入力としても使用できます。この場合は、スーパーブロックを書き込み後、スーパーブロック機能(HC機能)を ON にする必要があります。詳細はインバータ本体説明書を参照して下さい。

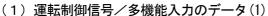
●出力フレーム数のインバータでの設定(ワード単位で設定)

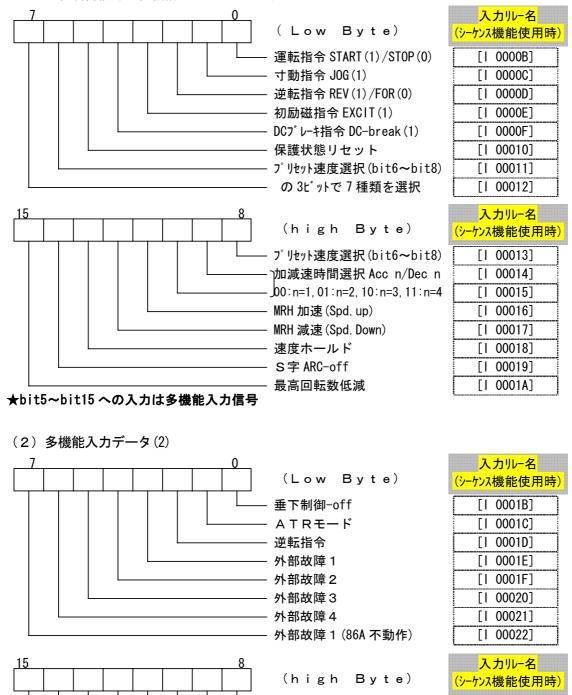
FUNC			
設定番号	設定項目	設定範囲	初期値
J-05	OPCN-1 出力フレーム数の設定	2~12	6

多機能入力指令は端子台からの入力を使用するか OPCN-1 通信による入力を使用するかを 選択しておく必要があります。選択はインバータの設定項目「C-00」で設定します。

●多機能入力場所の選択

FUNC			
設定番号	設定項目	選択項目	初期値
C-00	多機能入力場所の選択	O:端子台 1:通信	0





【注意】インバータへの運転指令を有効にするにはコンソールの設定の他に VFC64/VFC2001 制御基板上 の端子台の正転指令接点を ON しておく必要があります。また、インバータのシーケンス機能が 有効になっており、正転指令場所を変更している場合には、ラダー図において端子台への入力 信号が入力されているときに正転指令が ON となるようにシーケンスを追加しておくようにして 下さい。

- 外部故障 2 (86A 不動作)

外部故障3(86A 不動作)

外部故障 4 (86A 不動作) トレースバックトリガ

第2モータ選択

速度指令を端子台

非常停止入力 プログラム運転次段

[1 00023]

[I 00024] [I 00025]

[I 00026] [I 00027]

[1 00028]

[1 00029]

[I 0002A]

(3) -1. 制御用数値設定データ【スーパーブロックを使用しない場合】

アト゛レス	7 0	_
+4	速度指令値(L)	20000/定格回転数
	速度指令値(H)	
+6	トルク指令値(L)	5000/定格トルク
	トルク指令値 (H)	
+8	月日の設定値(L)	日の設定 1~31 [Day]
	月日の設定値 (H)	月の設定 1~12 [Month]
+10	時分の設定値(L)	分の設定 0~59 [Minute]
	時分の設定値 (H)	時間の設定 0~23 [Hour]

インバータの出力フレーム数の設定(J-04)の初期値が 6 [ワード] なので、そのままの設定値であれば上の表の通り設定されます。異なる場合は以下の様になるので、注意して下さい。

- (i)出力フレーム数の設定が6[ワード]未満のとき フレーム数の設定値の次以降のデータは無効となり、設定されません。 また、設定の最小値は2ワードであるので、それ以下は設定できません。
- (ii)出力フレーム数の設定が 6 [ワード]を超えるとき フレームアドレス [+12] 以降のデータはスーパーブロック機能が選択されていないので、設定されても反映されません。また、設定の最大値は 12ワードです。

(3) -2. 制御用数値設定データ【スーパーブロックを使用する場合】

+4 制御数値データ 1 (L) スーパープ ロック入力 1 +6 制御数値データ 2 (L) スーパープ ロック入力 2 制御数値データ 3 (L) スーパープ ロック入力 3 +8 制御数値データ 3 (L) スーパープ ロック入力 3 制御数値データ 3 (H) 入力変数 [f J - 0 0 3] +10 制御数値データ 4 (L) スーパープ ロック入力 4 制御数値データ 5 (L) スーパープ ロック入力 5 制御数値データ 5 (H) スーパープ ロック入力 5 +14 制御数値データ 6 (L) スーパープ ロック入力 6 +16 制御数値データ 7 (L) スーパープ ロック入力 7 +18 制御数値データ 7 (H) 入力変数 [f J - 0 0 6] +18 制御数値データ 8 (L) スーパープ ロック入力 8 +18 制御数値データ 9 (L) スーパープ ロック入力 9 +18 制御数値データ 9 (L) スーパープ ロック入力 9 +20 制御数値データ 9 (H) 入力変数 [f J - 0 0 9] +20 制御数値データ 9 (H) 入力変数 [f J - 0 0 9] +21 制御数値データ 1 0 (L) スーパープ ロック入力 1 0 +22 制御数値データ 1 0 (L) スーパープ ロック入力 1 0	アドレス	7	0	スーパーブロックのラベル
1	+4	制御数値データ 1 (L)		スーパーブロック入力 1
制御数値データ2 (H) 入力変数 [f J - O O 2] スーパ・フ・ロック入力3 和御数値データ3 (H) 入力変数 [f J - O O 3] スーパ・フ・ロック入力4 制御数値データ4 (H) 入力変数 [f J - O O 4] スーパ・フ・ロック入力4 和御数値データ5 (L) スーパ・フ・ロック入力5 制御数値データ5 (H) 入力変数 [f J - O O 5] スーパ・フ・ロック入力6 和御数値データ6 (H) スーパ・フ・ロック入力6 入力変数 [f J - O O 6] スーパ・フ・ロック入力7 制御数値データ7 (L) スーパ・フ・ロック入力7 ト18 制御数値データ8 (L) スーパ・フ・ロック入力8 オーパ・フ・ロック入力8 オーカ変数 [f J - O O 8] スーパ・フ・ロック入力9 和御数値データ9 (H) スーパ・フ・ロック入力9 入力変数 [f J - O O 9] スーパ・フ・ロック入力9 入力変数 [f J - O O 9] スーパ・フ・ロック入力9 入力変数 [f J - O O 9] スーパ・フ・ロック入力9 スーパ・フ・ロック入力9 スーパ・フ・ロック入力9 スーパ・フ・ロック入力10 スーパ・ロック入力10 スーパ・ロック入力10		制御数値データ 1 (H)		入力変数 [fJ-001]
************************************	+6	制御数値データ 2 (L)		スーパーブロック入力 2
制御数値データ3 (H) 入力変数 [fJ-003] スーパーブロック入力4 制御数値データ4 (L) スーパーブロック入力4 入力変数 [fJ-004] スーパーブロック入力5 制御数値データ5 (L) スーパーフ゛ロック入力5 入力変数 [fJ-005] スーパーフ゛ロック入力6 制御数値データ6 (L) スーパーフ゛ロック入力7 制御数値データ7 (L) スーパーフ゛ロック入力7 制御数値データ8 (L) スーパーフ゛ロック入力8 入力変数 [fJ-007] スーパーフ゛ロック入力8 入力変数 [fJ-008] スーパーフ゛ロック入力9 和御数値データ9 (H) スーパーフ゛ロック入力9 入力変数 [fJ-009] スーパーフ゛ロック入力9 入力変数 [fJ-009] スーパーフ゛ロック入力10		制御数値データ 2 (H)		入力変数 [fJ-002]
+10 制御数値データ4 (L) スーパーフ*ロック入力4 +12 制御数値データ5 (L) スーパーフ*ロック入力5 +14 制御数値データ6 (L) スーパーフ*ロック入力6 +16 制御数値データ7 (L) スーパーフ*ロック入力7 +18 制御数値データ8 (L) スーパーフ*ロック入力8 +18 制御数値データ8 (H) スーパーフ*ロック入力9 +20 制御数値データ9 (L) スーパーフ*ロック入力9 +20 制御数値データ9 (H) スーパーフ*ロック入力9 +22 制御数値データ1 O (L) スーパーフ*ロック入力1 O	+8	制御数値データ 3 (L)		スーパーブロック入力 3
制御数値データ 4 (H)		制御数値データ 3 (H)		入力変数 [fJ-003]
+12 制御数値データ5 (L) スーパ゚ープロック入力5 +14 制御数値データ6 (L) スーパ゚ープロック入力6 +16 制御数値データ7 (L) スーパ゚ープロック入力7 +18 制御数値データ8 (L) スーパ゚ープロック入力8 +18 制御数値データ8 (H) スーパ゚ープロック入力8 +20 制御数値データ9 (L) スーパ゚ープロック入力9 +20 制御数値データ9 (H) スーパ゚ープロック入力9 +21 制御数値データ9 (L) スーパ゚ープロック入力10	+10	制御数値データ 4 (L)		スーパーブロック入力 4
制御数値データ 5 (H) 入力変数 [f J - O 0 5] スーパーフ・ロック入力 6 入力変数 [f J - O 0 6] スーパーフ・ロック入力 7 入力変数 [f J - O 0 6] スーパーフ・ロック入力 7 制御数値データ 7 (L) 入力変数 [f J - O 0 7] 入力変数 [f J - O 0 7] スーパーフ・ロック入力 8 和御数値データ 8 (H) 入力変数 [f J - O 0 8] スーパーフ・ロック入力 9 入力変数 [f J - O 0 9] スーパーフ・ロック入力 9 入力変数 [f J - O 0 9] スーパーフ・ロック入力 1 O		制御数値データ 4 (H)		入力変数 [fJ-004]
+14 制御数値データ6(L) スーパープ・ロック入力6 制御数値データ6(H) 入力変数 [fJ-006] +16 制御数値データ7(L) スーパープ・ロック入力7 制御数値データ7(H) 入力変数 [fJ-007] +18 制御数値データ8(L) スーパープ・ロック入力8 ・18 制御数値データ8(H) 入力変数 [fJ-008] +20 制御数値データ9(L) スーパープ・ロック入力9 ・20 制御数値データ9(H) 入力変数 [fJ-009] ・カ変数 [fJ-009] スーパープ・ロック入力10	+12	制御数値データ 5 (L)		スーパーブロック入力 5
制御数値データ 6 (H) 入力変数 [f J - O O 6] スーパーフ・ロック入力 7 制御数値データ 7 (L) 入力変数 [f J - O O 7] 入力変数 [f J - O O 7] スーパーフ・ロック入力 8 入力変数 [f J - O O 8] スーパーフ・ロック入力 9 入力変数 [f J - O O 9] スーパーフ・ロック入力 9 入力変数 [f J - O O 9] スーパーフ・ロック入力 1 O		制御数値データ 5 (H)		入力変数 [fJ-005]
+16 制御数値データ 7 (L) スーパ・フ・ロック入力 7 制御数値データ 7 (H) 入力変数 [fJ-007] +18 制御数値データ 8 (L) スーパ・フ・ロック入力 8 制御数値データ 8 (H) 入力変数 [fJ-008] +20 制御数値データ 9 (L) スーパ・フ・ロック入力 9 制御数値データ 9 (H) 入力変数 [fJ-009] +22 制御数値データ 1 0 (L) スーパ・フ・ロック入力 1 0	+14	制御数値データ 6 (L)		スーパーブロック入力 6
制御数値データ 7 (H) 入力変数 [f J - O O 7] スーパープロック入力 8 スーパープロック入力 8 入力変数 [f J - O O 8] スーパープロック入力 9 スーパープロック入力 9 入力変数 [f J - O O 9] スーパープロック入力 1 O		制御数値データ 6 (H)		入力変数 [fJ-006]
+18 制御数値データ8(L) スーパ・フ・ロック入力8 制御数値データ8(H) 入力変数 [fJ-008] +20 制御数値データ9(L) スーパ・フ・ロック入力9 制御数値データ9(H) 入力変数 [fJ-009] +22 制御数値データ10(L) スーパ・フ・ロック入力10	+16	制御数値データフ(L)		スーパーブロック入力フ
制御数値データ8 (H) 入力変数 [fJ-008] +20 制御数値データ9 (L) 制御数値データ9 (H) 入力変数 [fJ-009] +22 制御数値データ1 O (L) スーパ・-フ・ロック入力1 O		制御数値データ 7 (H)		入力変数 [fJ-007]
+20 制御数値データ9(L) スーパ・フ・ロック入力9 制御数値データ9(H) 入力変数 [fJ-009] +22 制御数値データ10(L) スーパ・フ・ロック入力10	+18	制御数値データ8(L)		スーパーブロック入力 8
制御数値データ 9 (H) 入力変数 [fJ-009] +22 制御数値データ 1 O (L) スーパ・-フ゛ロック入力 1 O		制御数値データ8(H)		入力変数 [fJ-008]
+22 制御数値データ 1 O (L) スーパ゜ーフ゛ロック入力 1 O	+20	制御数値データ 9 (L)		スーパーブロック入力 9
		制御数値データ 9 (H)		入力変数 [fJ-009]
制御数値データ1〇(H) 入力変数 [fJ-010]	+22	制御数値データ 1 O (L)		スーパーブロック入力10
		制御数値データ10(H)		入力変数 [fJ-010]

上の表はスーパーブロックを使用したときのフレーム構成です。運転制御フラグと多機能入力のフレームは固定です。また、表の右側にあるのがスーパーブロックで使用する入力アドレスになるので、スーパーブロックを入力する際はこのラベルを選択して下さい。

2-2. 入力フレーム

入力フレームのデータの並びは次の様になります。

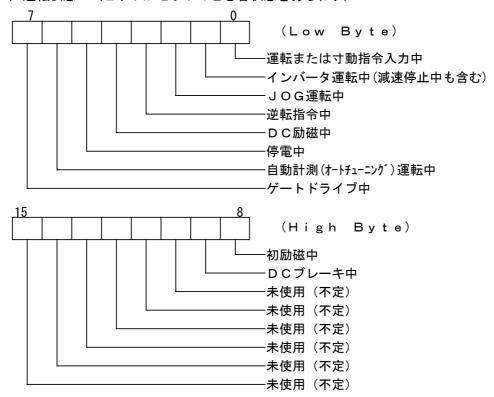
アドレス	15 0	. ~
+0	インバータの運転状態	
+2	故障状態フラグ(1)	固定
+4	故障状態フラグ(2)	
+6	多機能出力データ	
+8	<mark>モニタ出力値 1</mark>	1
+10	" 值 2	
+12	" 值 3	
+14	" 值 4	
+16	" 値 5	
+18	" 値 6	
+20	" 值 7	
+22	" 値 8	可変
+14	" 值 9	
+16	" 值10	
+18	" 値 11	
+20	" 值12	
+22	" 值13	
+24	" 值14	
+26	" 值15	
		1 /

JEMA ネットの入力フレーム(OPCN64→マスタ局)は先頭からの 47-ドの情報は固定とし、57-ド目からは可変長とすることができます。またこのモニタ出力エリアはスーパーブロックからの演算結果としてマスタ局へ出力することもできます。この場合はスーパーブロックを書き込み後、スーパーブロック機能(HC機能)を ON にする必要があります。詳細はインバータ本体説明書を参照して下さい。

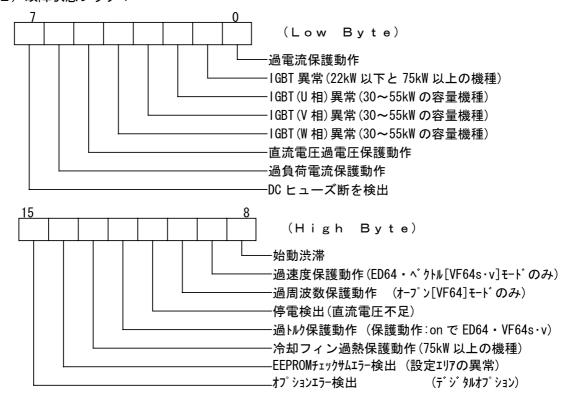
●入力フレーム数のインバータでの設定(ワード単位で設定)

FUNC			
設定番号	設定項目	設定範囲	初期値
J-04	OPCN-1 入力フレーム数の設定	4~19	14

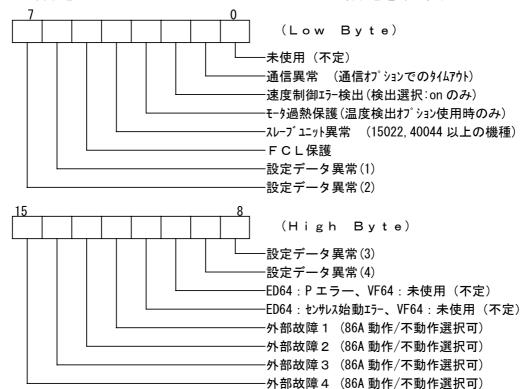
(1) 運転状態 (ビットがセットのとき各状態をあらわす)



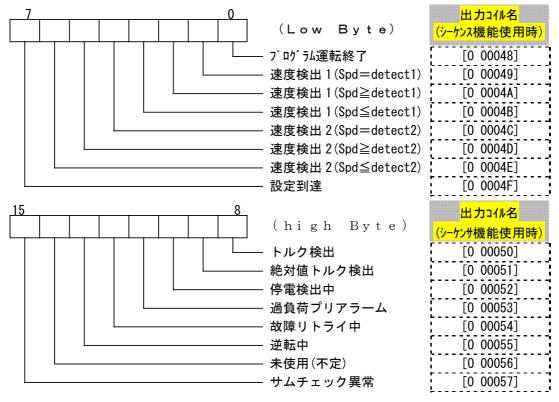
(2) 故障状態フラグ1



(3) 故障状態のモニタデータ2 (ビットがセットのとき各状態をあらわす)



(4) 多機能出力の状態 (ビットがセットのとき各状態をあらわす)



(5) -1. モニタ出力値【スーパーブロックを使用しない場合】

アドレス	7 0	
+8	モータ回転数(L)	20000/TOP, オープン (VF64)
	モータ回転数(H)	使用時では出力周波数
+10	A R C出力値(L)	20000/TOP(最高速度)
	A R C出力値 (H)	
+12	実効電流値(L)	10000/定格電流(100%)
	実効電流値(H)	
+14	トルク指令値(L)	5000/100%,オープ°ン(VF64)
	トルク指令値 (H)	使用時では演算トルク
+16	直流電圧値(L)	Vdc(実電圧) ×10⋅⋅⋅200V 系
	直流電圧値(H)	Vdc(実電圧)× 5···400V系
+18	出力電圧値(L)	Vo(実電圧)×20···200V 系
	出力電圧値(H)	Vo(実電圧)×10···400V 系
+20	出力周波数値(L)	20000/TOP(最高周波数)
	出力周波数値(H)	
+22	O L プリカウンタ (L)	1000で"OL"保護動作
	O L プリカウンタ (H)	
+24	モータ温度検出値(L)	10/1°C
	モータ温度検出値(H)	(温度検出器オプション使用時)
+26	※右記参照(L)	※VF64:モータ磁束・1024/定格磁束
	※右記参照(H)	(VF64S/Vモードのみ出力)
		Y/FDC4 " = 1.4k 1004 /1

※ED64: パワコン比・1024/1

マスタ局へのの入力フレーム数の設定 (J-05) の初期値が 14[ワード]なので、そのままの設定値であれば上の表の通り出力されます。異なる場合は以下の様になるので、注意して下さい。

- (i)入力フレーム数の設定が14[ワード]未満のとき フレーム数の設定値の次以降のデータは無効となり、出力されません。 また、フレーム数の設定の最小値は4ワードであるので、それ以下は設定できません。
- (ii)入力フレーム数の設定が14[ワード]を超えるときは、フレームアドレス[+24]以降のデータは スーパープロック機能が選択されていないので、値は不定となります。 また、フレーム数の設定は最大値は19ワードです。

(5) -2. モニタ出力値【スーパーブロックを使用する場合】

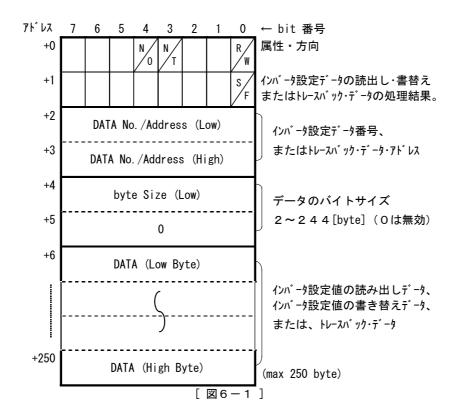
アドレス	7 0	スーパーブロックのラベル
+8	モニタ出力値 1 (L)	スーパーブロック出力 1
	モニタ出力値 1 (H)	出力変数 [tJ-001]
+10	モニタ出力値 2 (L)	スーパーブロック出力2
	モニタ出力値 2 (H)	出力変数 [tJ-002]
+12	モニタ出力値 3 (L)	スーパーブロック出力3
	モニタ出力値 3 (H)	出力変数 [tJ-003]
+14	モニタ出力値 4 (L)	スーパーブロック出力 4
	モニタ出力値 4 (H)	出力変数 [tJ-004]
+16	モニタ出力値 5 (L)	スーパーブロック出力5
	モニタ出力値 5 (H)	出力変数 [t J - 0 0 5]
+18	モニタ出力値 6 (L)	スーパーブロック出力 6
	モニタ出力値 6(H)	出力変数 [t J - 0 0 6]
+20	モニタ出力値 7 (L)	スーパーブロック出力フ
	モニタ出力値 7 (H)	出力変数 [t J - 0 0 7]
+22	モニタ出力値 8 (L)	スーパーブロック出力8
	モニタ出力値 8 (H)	出力変数 [t J - 0 0 8]
+24	モニタ出力値 9 (L)	スーパープロック出力9
	モニタ出力値 9(H)	出力変数 [tJ-009]
+26	モニタ出力値 1 O (L)	スーパーブロック出力10
20	モニタ出力値10(H)	出力変数 [t J - O 1 O]
+28	モニタ出力値 1 1 (L)	スーパーブロック出力11
20	モニタ出力値 1 1 (H)	出力変数 [t J - O 1 1]
+30	モニタ出力値 1 2 (L)	スーパーブロック出力12
+32	モニタ出力値 1 2 (H)	出力変数 [t J - O 1 2]
+32	モニタ出力値 1 3 (L)	スーパーフ゛ロック出力13
. 24	モニタ出力値13(H)	出力変数 [t J – O 1 3]
+34	モニタ出力値14(L)	スーパーフ゛ロック出力14
+36	モニタ出力値 1 4 (H)	出力変数 [t J - O 1 4]
+30	モニタ出力値 1 5 (L) モニタ出力値 1 5 (H)	スーパーブロック出力15 出力変数[tJ-015]
	てーダ山刀胆(15 (11)	山刀友数[[0 - 0 5]

上の表はスーパーブロックを使用したときのフレーム構成です。運転状態フラグと故障状態、及び多機能出力のフレームは固定です。また、表の右側にあるのがスーパーブロックで演算された値の出力アドレスになるので、スーパーブロックを入力する際はこのラベルを選択して下さい。

3. データ読み出しサービスとデータ書き込みサービスについて

データ読み出し・書き込みサービスはJEMAネットワークで規定したサービス名であり、 本サービスを使用して、インバータ内部の設定データの読み出し、書き替えとトレースバック データの読みだしを行います。

(注) 下図中のアドレス部の値はJEMAネットワークで規定しているヘッダ部, データ部のデータ部の先頭からのオフセット値を表しています。よって、JEMA規格書内のユーザ・リンク(UL)層でのデータユニット構成でのオフセット値で表現すると [+10] からのデータということになります。



【詳細説明】

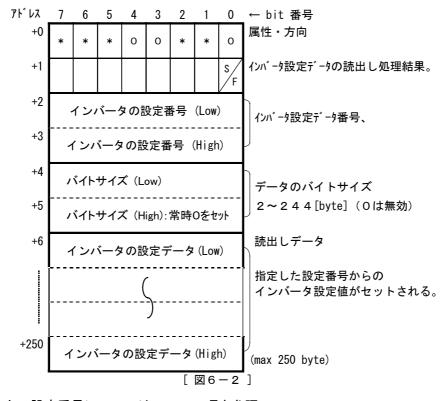
R∕W (Read/Write)	O:Read の設定となり、インバータ内部の設定データを読み出すすときこの値を設定します。トレースバック・データの読み出し時は常時この値を設定します。
	1:Writeの設定となり、インバータ内部の設定データの書き替え時にはこの 値を設定します。
N/T (Normal/Trace)	O: Normal の設定となり、インバータ内部の設定データの読み出し/書き替え処理を 意味します。
	1:Trace の設定となり、トレースバック・データの読み出し処理を意味します。
N/O	O:Newの設定となり、最新のトレースバック・データの読み出し要求となります。
(New/Old)	1:0ldの設定となり、最新の1つ前のトレースバック・データの読み出し要求となります。
S/F	O:処理に対するインパータの応答であり、正常終了(Success)を意味します。
(Success/Fail)	1:処理に対するインバータの応答であり、不良終了(Fail)を意味します。

設定データの読出し、書替えとトレースバックの詳細な設定方法は、次項以降で説明します。

3-1. インバータ設定データの読み出し処理

インバータ設定値の読み出しは以下のシーケンスで行います。

- (1) マスタ局はOPCN64に対して、データ書き込みサービスを実行し、送信します。 このときの属性・方向は[図6-2]とし、読み出したいインバータの設定番号と バイトサイズを設定します。ただし、アドレス[+6]以降のデータは設定しません。
- (2) マスタ局では(1)で送信したデータが、そのままアンサーバックとして受信できます。
- (3) (2)に続きマスタ局はOPCN64に対して、データ読み出しサービスを実行し送信します。 このときの属性・方向は[図6-2]とし、読み出したいインバータの設定番号と バイトサイズを設定します。但し、アドレス[+6]以降のデータは(1)同様設定しません。
- (4) マスタ局では(3) で送信したデータに対する受信データを受け取れます。 そのときの各データの情報は、処理結果により、(7),(4)となります。
 - (7) 正常終了(S/F=0) のとき。
 - ・属性・方向は[図6-2]の通りです。
 - ・インバータの設定番号とバイトサイズは(3)で設定された値がセットされています。
 - ・下表のアドレス[+6]以降のデータは(1)で指定されたインバータの設定番号によるインバータの設定データが読み出せます。
 - (イ) 不良終了(S/F=1) のとき。
 - ・属性・方向及びインバータの設定番号、バイトサイズのデータは(ア)と同様。
 - ・下図のアドレス[+6]以降のデータ部にインバータの設定データは無しです。

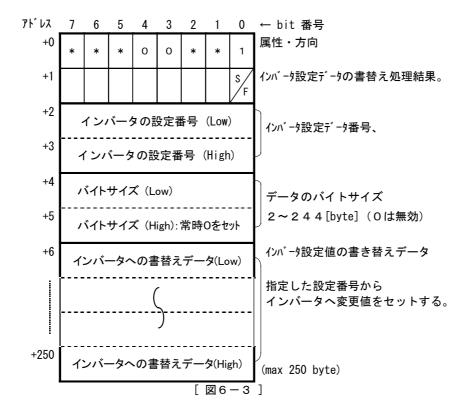


- ※ インバータの設定番号については3-3. 項を参照。
- (注) *はリザーブ・ビットです。書き込み時には"O"をセットして下さい。

3-2. インバータ設定データの書き替え処理

インバータ設定値の書き替えは以下のシーケンスで行います。

- (1) マスタ局はOPCN64に対して、データ書き込みサービスを実行し、送信します。 このときの属性・方向は[図6-3]とし、書き替えたいインバータの設定番号と バイトサイズを設定します。また、アドレス[+6]以降のデータには変更する設定値の データをバイトサイズ分設定して下さい。
- (2) マスタ局では(1)で送信したデータに対する受信データを受け取れます。 そのときの各データの情報は、処理結果により、(7)、(4)となります。
 - (7) 正常終了(S/F=O) のとき。
 - ・属性・方向は[図6-3]の通りです。
 - ・インバータの設定番号とバイトサイズは(1)で設定された値がセットされています。
 - ・下表のアドレス [+6] 以降のデータは(1) で指定された書き替えデータがそのまま読み出せます。
 - (イ) 不良終了 (S/F=1) のとき。
 - ・属性・方向及びインバータの設定番号、バイトサイズのデータは(ア)と同様です。
 - ・下図のアドレス [+6] 以降のデータは(1)で指定された書き替えデータがそのまま読み出せます。
 - S/F=1の場合は、正しくセットされていない項目が存在します。



- ※ インバータの設定番号は3-3. 項を参照。
 - (注1) *はリザーブ・ビットです。書き込み時には"0"をセットしてください。
 - (注2) <mark>インバータの設定データを変更する場合、インバータの制御基板上のディップ</mark> スイッチ(SW1)の"1"を"OFF"にしておくこと。

3-3. インバータ設定番号について

設定データ読み出し、設定データ書き込みにて使用されるインバータの設定番号については、インバータの種類、制御モード、ソフトウェアバージョンにより異なります。 詳細については別途お問い合わせ下さい。

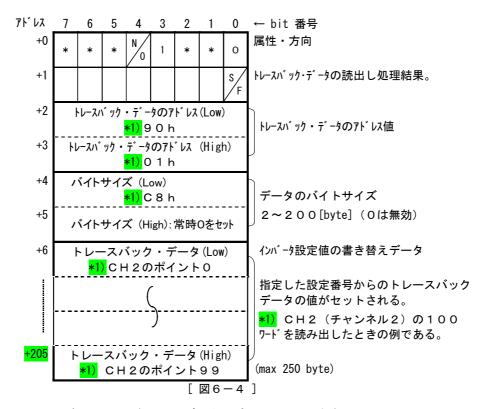


・設定データ変更書き込みを実行して変更された設定データは、 インバータ本体の制御基板上のEEPROMに書き込まれます。EEPROM の書き込み回数は無制限ではありませんので、あまり頻繁に設定データを変更 するような使い方はしないで下さい。

3-4. トレースパックデータの読み出し

トレースバック・データの読み出しは、下記のシーケンスで読み出せます。 (1 チャンネル・100 データ単位の読み出しを推奨しますが、任意のデータを読み出すことも可能です。)

- (1) マスタ局はOPCN64に対して、データ書き込みサービスを実行し、送信します。このときの属性・方向は[図6-4]とし、(N/O ビットは 0 か 1 を設定します) 読み出したいトレースバックデータのアドレス値と、バイトサイズを設定します。 ただし、アドレス [+6] 以降のデータは設定しません。
- (2) マスタ局では(1)で送信したデータが、そのままアンサーバックとして受信できます。
- (3) (2) に続きマスタ局はOPCN64に対して、データ読み出しサービスを実行し送信します。 属性・方向、読み出すトレースバックデータのアドレス及び、バイトサイズは(1)で 送信したデータと同様の設定を行います。アドレス「+6] 以降のデータも同様です。
- (4) マスタ局では(3) で送信したデータに対する受信データを受け取れます。 そのときの各データの情報は、処理結果により、(7)、(4) となります。
 - (ア) 正常終了(S/F=0) のとき。
 - ・属性・方向は[図6-4]の通りです。(N/0ビットは(1)の設定)
 - ・トレースバック・データのアドレスとバイトサイズは(1)で設定された値がセットされています。
 - ・下表のアドレス [+6] 以降のデータは(1)で指定されたトレースバック・データが 設定されています。
 - (イ) 不良終了(S/F=1) のとき。
 - ・属性・方向及びインバータの設定番号、バイトサイズのデータは(ア)と同様です。
 - ・下図のアドレス「+6」以降のデータ部にトレースバック・データは無しです。



- ※ トレースバックのアドレスとデータ内容は3-5項を参照。
- (注) *はリザーブ・ビットです。書き込み時には"O"をセットして下さい。

3-5. トレースバックデータのアドレスとデータ内容

※1チャンネル分のデータは100ワード(200バイト)となります。

71° V3	チャンネル	データ内容	ディメンジョン	符号
0~ (0000H~)	0	U相電流		
200~ (00C8H~)	1	∨相電流	3536/インバータ定格	有
400~ (0190H~)	2	W相電流		
600~ (0258H~)	3	直流電圧	10/1V	+
800~ (0320H~)	4	出力電圧	10/10	有
1000~ (03E8H~)	5	モータ速度 (VF64の V/f モードでは未使用)	2000/最高回転数	有
1 2 0 0 ~ (0 4 B 0 H~)	6	速度指令(加減速制御後) (VF64のV/fモードでは周波数指令)	20000/取同回私数	Ħ
1400~ (0578H~)	7	トルク指令	5000/100%	有
1600~ (0640H~)	8	出力周波数	2000/最高周波数	有
1800~ (0708H~)	9	VF64:滑り周波数 (V/f モードでは未使用)	20000/最高周波数	有
(0,0011)		ED64: d 軸電流指令	6060/定格	有
2000~ (07D0H~)	1 0	VF64:磁束 (V/f モードでは未使用	1024/定格磁束	無
(0,0011)		ED64: q 軸電流指令	6060/定格	有
2200~	11	VF64:モータ温度	10∕1℃	無
(0898H~)	' '	ED64:制御位相	32768/180° (電気角)	有
2400~ (0960H~)	1 2	故障フラグ(1)	表 6. 2 参照	無
2600~ (0A28H~)	1 3	故障フラグ(2)	表 6. 2 参照	無
2800~ (0AF0H~)	1 4	インバータ状態フラグ	表 6. 2 参照	無
3000~ (0BB8H~)	1 5	インバータ指令フラグ	表 6. 2 参照	無

表6. 1 トレースバックデータ

ピット	故障フラグ(1)	故障フラグ (2)	ピゕ	インバータ状態フラグ	インバータ指令フラグ
0	過電流	(未使用)	0	運転・寸動指令入力有り	運站令
1	I GBT異常	通言オプションのタイムアウト	1	運 中	JOG 指令
2	I GBT(U相)異常	速 ままり	2	寸動 動 中 又は 寸 動 動 正 て い た	逆部令
3	I GBT(V相)異常	モータ過熱	3	逆諸令有り	(未使用)
4	I GBT (W相) 異常	スレーブユニット異常	4	DC励磁中	DCブレーキ指令
5	過電王	FCL異常	5	停電中	(未使用)
6	過負荷	設定データエラー0	6	自動制中	(未)押)
7	DCフューズ断	設定データエラー1	7	ゲートドライブ中	励磁岭
8	始防港	設定データエラー2	8	励磁中	(未使用)
9	過速度	設定データエラー3	9	DCブレーキ中	(未使用)
10	過郡皮数	VF64: (未使用) 、ED64:Pエラー	10	始時磁束上昇中	(未使用)
11	直結尾田田下	朱姨用	11	プログラム運搬で了停止中 (一回実行時)	朱剌
12	過トルク	外部政障1	12	朱岬	朱使用
13	フィン過熱	外部故障2	13	未無	(未使用)
14	EEPROMメモリ異常	外部故障3	14	(未使用)	(未)押)
15	オプションボード実常	外部政障4	15	FCL保护	朱伊用

表6. 2 トレースバック・データのフラグ一覧 (未使用)と書かれているビットの値は**不定**です。

4. OPCN64オプション固有のOPCN-1通信仕様について

以下の説明に出てくる、stypeM、len、limsize、n_io_arrM、io_arrMとは、JIS B 3511 (JEM-F 3008)で定義される通信データの SDU の用語です。詳細は上記規格を参照して下さい。

- ・初期設定サービスにおいて、マスタ局から stypeM を指定しない場合、マスタ局側で len を変更 しても、インバータ側で設定された入出力データ長が適用されます。 マスタ局から stypeM を指定した場合は、len、limsize、n_io_arrM、io_arrM の全てがインバータ で設定された入出力データ長と一致していないと、インバータは拒絶通知を応答します。
- ・入出力サービスは非同期モードのみに対応しています。
- ・入出力サービスにおいて、マスタ局から、設定より短い出力フレームを受信した場合には、フレームの先頭から順に受信したデータの分だけが設定されます。 ただし len<3 以下の場合には不正データとみなし無視します。 16bit 長のデータに対して 8bit 分のデータにしかならない場合もそのまま設定されます。 マスタ局から、設定より長い出力フレームを受信した場合には、設定されているフレーム長の分だけのデータが設定され、それ以降のデータは無視されます。 ただし len>131 の場合には不正データとみなし無視します。
- ・データ読み出しサービスで応答するデータは、事前にデータ書き込みサービスを使用して読み出されるデータを設定する仕様となっています。従って、データ読み出しサービスのみを実施した場合、読み出しデータなしとして応答します。(手順の詳細は、13ページと16ページを参照して下さい)
- ・データ読み出しサービスにおいて、事前のデータ書き込みサービスで受信したデータの len が 6 未満の場合には、データは返しません。
- ・データ読み出しサービス、データ書き込みサービスにおいて、len>250 の場合は、不正データと みなし無視されます。

₩ 東洋電機製造株式会社

https://www.toyodenki.co.jp/

本 社 東京都中央区八重洲一丁目 4-16(東京建物八重洲ビル) 〒103-0028 産業事業部 TEL 03 (5202)8132~6 FAX 03 (5202)8150

TOYODENKI SEIZO K.K.

https://www.toyodenki.co.jp/en/

HEAD OFFICE: Tokyo Tatemono Yaesu Bldg, 1–4–16 Yaesu, Chuo-ku,
Tokyo, Japan ZIP CODE 103-0028

TEL: +81-3-5202-8132 -6 FAX: +81-3-5202-8150

サービス網東洋産業株式会社

本

https://www.toyosangyou.co.jp/

社 東京都大田区大森本町一丁目 6-1 (大森パークビル) **〒143-0011**

TEL. 03 (5767) 5781 FAX. 03 (5767) 6521

本資料記載内容は予告なく変更することがあります。ご了承ください。